

「中央区健康・食育プラン2013」の最終評価について

1 各指標の評価方法について

各指標の評価にあたっては、プラン策定当初値に対する目標の達成状況により、「A」「B」「C」「D」の4段階により評価しています。

指標ごとに、当初値・中間評価値・最終評価値・目標を一覧化し、それぞれについて上記の評価を示すこととします。

< 例 >

指標	当初値	中間評価値	最終評価値	目標	最終評価	
区民のうつ傾向の減少	男性（65歳以上）	29.2%	22.5%	24.0%	下げる	A
	女性（65歳以上）	22.0%	18.6%	22.8%	下げる	C

< 「中央区民の健康食育に関する意識調査」を基とした指標の評価区分と判断基準 >

評価区分	判断基準	
	目標が「上げる」「下げる」などの場合	目標が数値の場合
A	最終評価値が目標を達成し、当初値からの増減率が目標の方向に対して+5%超の改善となっている。	最終評価値が目標値を達成している。
B	最終評価値が目標を達成し、当初値からの増減率が目標の方向に対して+5%以下の改善となっている。	最終評価値が目標値を達成できなかったが、当初値からの増減率が目標の方向に対して+5%超の改善となっている。
C	最終評価値が目標を達成できず、当初値からの増減率が目標の方向に対して-5%以下の悪化となっている。	最終評価値が目標値を達成できず、当初値からの増減率が目標の方向に対して±5%以内の横ばいとなっている。
D	最終評価値が目標を達成できず、当初値からの増減率が目標の方向に対し-5%超の悪化となっている。	最終評価値が目標値を達成できず、当初値からの増減率が、目標の方向に対し-5%超の悪化となっている。
E	最終評価に必要なデータが徴取できない等の理由により、評価が困難なもの。	最終評価に必要なデータが徴取できない等の理由により、評価が困難なもの。

なお、基本目標及び総合目標については、それぞれの目標および取組の方向性に関連する各指標の達成状況と、事業の実施状況やコロナ禍の影響など社会的な情勢を踏まえ、現状の分析と今後の取組の方向性を検討していきます。

2 最終評価に関する取りまとめの記載内容（案）について

基本目標ごとに「健康指標」と「意識・行動指標」に分けて指標の一覧を作成し、必要に応じて指標の達成状況を考察していきます。

また、各指標の達成状況を踏まえ、基本目標ごとに全体を通じた総評と今後の取組の方向性を記載することに加え、総合目標についても評価を行っていきます。

(1) 指標の達成状況に関する記載方法（案）

2. 生活習慣病の予防

(1) 健康指標

指標	当初値	中間 評価値	最終 評価値	目標	最終 評価
適性体重を維持している区民の増加					
児童・生徒の肥満児	7.4%	5.7%	6.7%	下げる	A
20歳代女性のやせの者	24.2%	24.3%	18.0%	20%以下	A
20～60歳代男性の肥満者	30.6%	29.0%	30.0%	28%以下	C
40～60歳代女性の肥満者	9.2%	12.6%	10.1%	下げる	D
進行した歯周病の減少					
40歳	38.6%	42.8%	45.8%	下げる	D
50歳	50.3%	50.8%	48.8%	下げる	B

指標の達成状況について

※各指標の達成状況を踏まえ、調査結果の詳細（性別・年代による大きな傾向差がある場合等）や社会的背景の変化を考慮すべき指標を中心に、達成状況や関連する事業の実施状況などに関する考察を記載する。

(2) 基本目標及び総合目標の評価に関する記載方法 (案)

基本目標	総評	今後の課題・取組の方向性
食育の推進	<p>全体的に、最終評価値は当初値から～～傾向で～～</p> <p>特に指標〇〇では～～</p> <p>施策の取り組みとしては～～</p> <p>期中における食育推進の取り組みについては～～のような情勢の中～～であったと振り返り～～評価する</p> <p>(必要に応じて、国や都の傾向も交えながら、比較や分析を進めていく)</p>	<p>(総評より) ～～のような課題があると考えられる</p> <p>区民の方は～～のような状況があり～～のようなことが求められ～～</p> <p>～～のようなことに注力することが重要と考えられる</p>
生活習慣病の予防		
がん対策の充実		
こころの健康づくり		
高齢者の健康づくり		

総合目標	基本目標を踏まえた総評	今後の課題・取組の方向性
健康寿命の延伸		
主観的健康観の向上		